

【投信調査室コラム】

日本版ISAの道 その42

NISA で何をかう? 2014 年最初の週は新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンドが中心で、既存投資家(投信全体)では日本株ファンドと REIT ファンドが中心のようである。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

1月1日のNISA口座数は440万口座以上(昨年10月1日は357万口座以下)

2014年1月15日に日本証券業協会の稲野会長が2014年1月1日時点のNISAの口座数について、「証券会社全体で320万口座、銀行など証券会社以外を加えれば、少なくとも440万口座に達した。その他の金融機関の口座数も、証券会社と同じペースで増えているとすると、現時点で500万前後になっていると推察される。」と発言した。2013年9月末時点の全国証券会社「顧客口座数」(\*残高のない口座を除いた口座数)は2135万口座で、証券会社全体のNISA口座が320万口座であることから、顧客口座数の約15%がNISAとなる計算である(日本証券業協会「全国証券会社主要勘定及び顧客口座数等」…URLは後述[参考ホームページ])。2013年10月8日に国税庁がNISAの申請について「10月1日に357万口座」と発表している事と比べても、好スタートと言える(\*当時は証券会社全体が237万口座、銀行など証券会社以外が120万口座、ただし重複が延べ10万4千口座あり)。「日本版ISA(NISA/ニーサ)が2014年に5~600万人、4~5兆円となる可能性は十分あると言えそう」と言う当コラムの予想が一層、現実的となってきた(2013年6月3日付日本版ISAの道その14~URLは後述[参考ホームページ])。

新規投資家(NISA向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンド

440万口座以上の口座開設の次はNISAで何をかうかだ。そこで今回は、NISAの主力となるだろう投信のデータを使って何をかっているかを推測することとする。まずは「NISA向けファンド」の純設定(推計)を見る(\*NISA向けファンドは後述)。

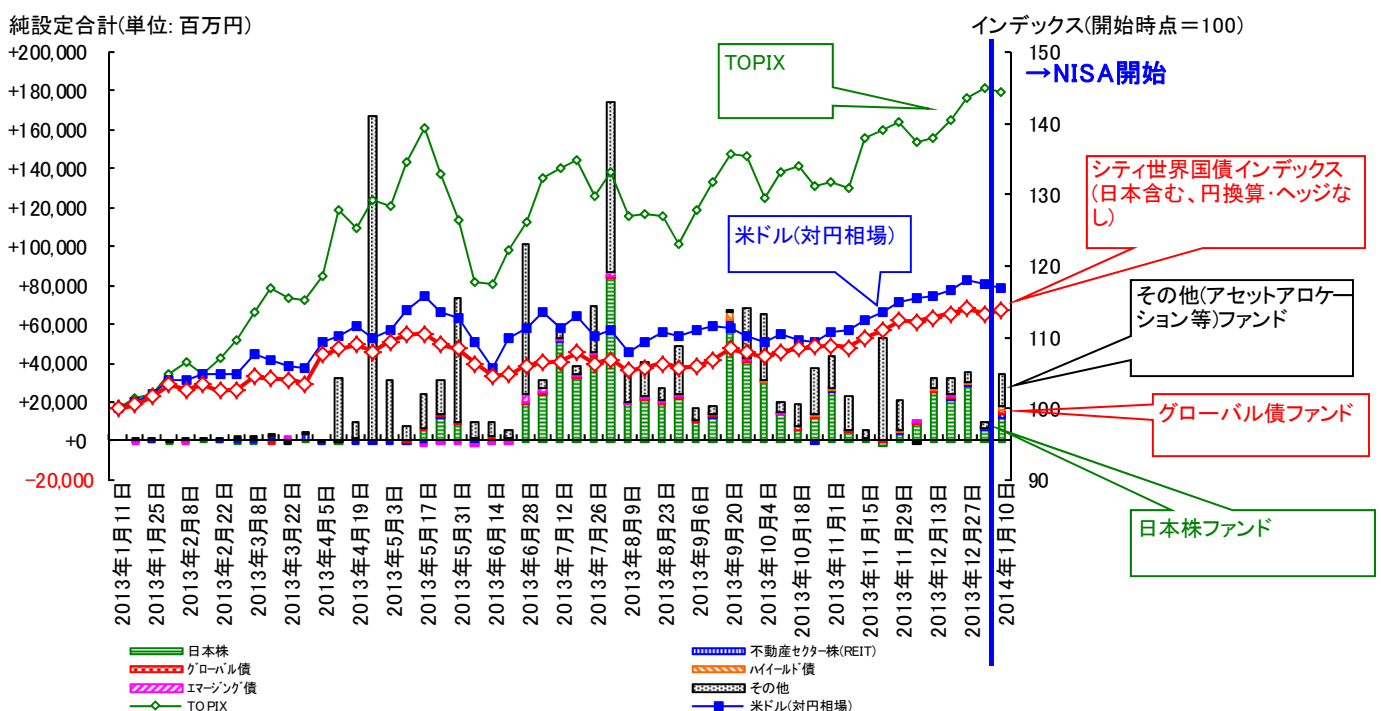


日本籍のNISA向けファンド(ETFを含む追加型)の純設定(推計)の推移  
(2013年1月11日 ~ 2014年1月10日、週次データ)

\*NISA向けファンド(ETFを含む追加型)… 2014/01/10 現在391本ある現存ファンドについて。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド  
週次・純設定



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

前頁グラフは「NISA 向けファンド(ETF を含む追加型)」の純設定(推計)である(下記※1 参照)。2014 年 1 月 10 日週に+348 億円と、2013 年 4 月 12 日週以来連続の資金純流入となっている。この純設定額を分類別に見ると、**その他(アセットアロケーション等)ファンドと日本株ファンドが多く、次いでグローバル債ファンドとなっており REIT ファンドは少ない**ようである。この「NISA 向けファンド」だが、投資信託協会の言う「**NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)**」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(\*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている(下記※1 参照)。

※1: 2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンド…2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年 1~2 回ファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(\*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2013 年 12 月 31 日時点で 391 本となった。

## 既存投資家(投信全体)では日本株ファンドと REIT ファンド

前項の「NISA 向けファンド(ETF を含む追加型)」の純設定(推計)だが、各種報道、「**不動産投資信託(REIT)に分散投資するファンドの人気の高い。野村証券では日本株投信も売れ筋だ。**」(1 月 11 日付日本経済新聞朝刊)、「**人気の投資先の1つが複数の不動産投資信託(REIT)に投資するファンドだ。**」(1 月 15 日付日本経済新聞朝刊)などと、どこか違う。報道では、REIT ファンドが人気の様だ。また、証券会社では、SBI 証券が 1 月 6 日~10 日の NISA 口座ランキングを発表しているが、株式については「**NISA の実際の買い付けでは、武田薬品工業がトップになるなど高配当の銘柄に人気が集まった。**」(1 月 11 日付日本経済新聞朝刊)の報道通り、2014 年 1 月 16 日現在 3.7%の配当利回りを持つ武田薬品工業(4502)が 1 位で、**投信では上位 1~3 位に毎月分配型の REIT ファンド、4 位に毎月分配型の通貨選択型ファンド、5 位に日本株ファンド**となっている(URL は後述[参考ホームページ])。松井証券も 1 月 6 日~10 日における NISA の ETF・REIT 買いランキングを発表しており、**ETF の上位 1~4 位を日本株ファンド(\*日本株のレバレッジ・プルを含む)が占め、5 位は REIT ファンド**となっている(URL は後述[参考ホームページ])。

投資信託協会の言った「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」とイメージが違う。これは「NISA 向けのファンド」が 2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」を元にしており、「投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層」に焦点をあてているためであろう(URL は後述[参考ホームページ])。2013 年 6 月 28 日に投資信託協会の白川会長は NISA について「**既存の投資家以外の投資が拡大する、絶好の機会だ**」と発言していた。

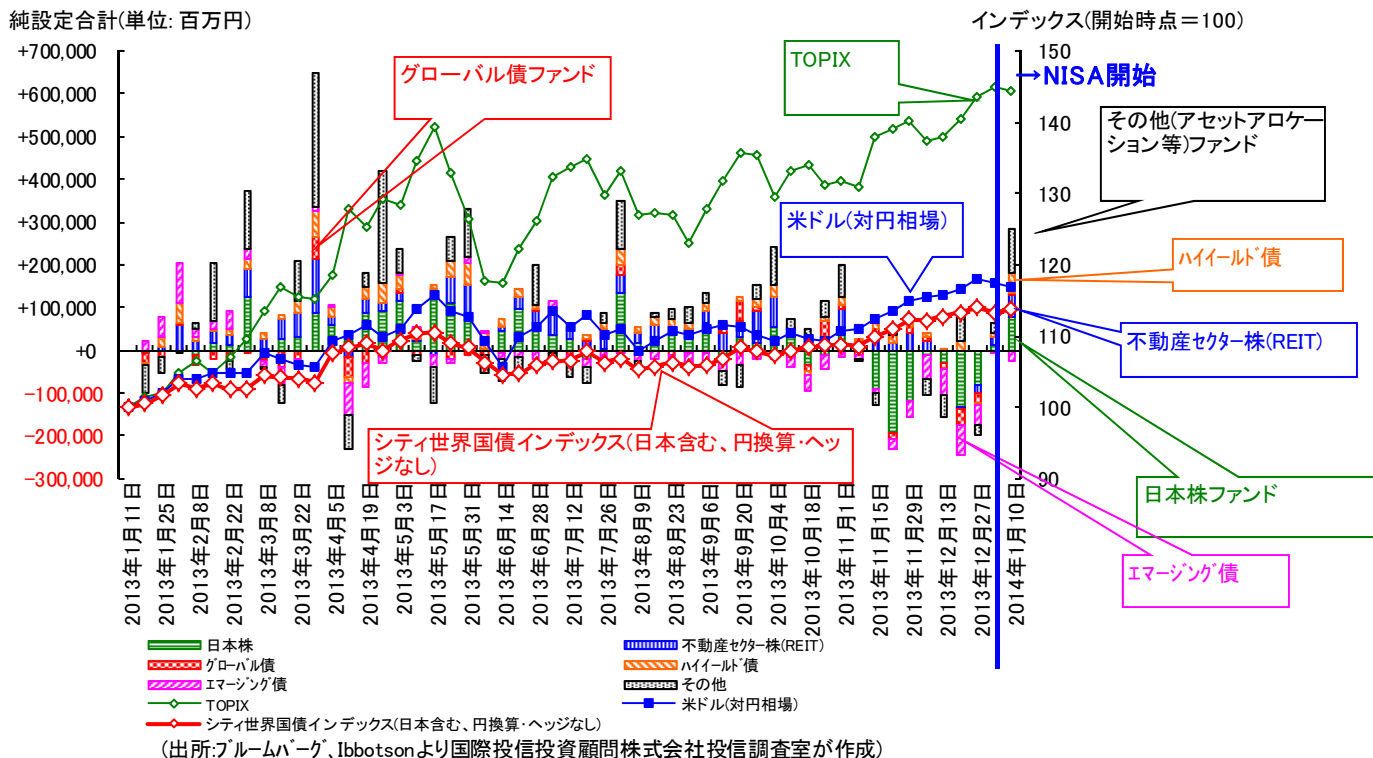
一方、NISA は国民皆(かい)制度なので、既存投資家がたくさん投資をするものでもある。従って、NISA の動向を見る場合、既存投資家が多く存在し、純設定額では新規投資家(NISA 向けファンド)より既存投資家によるものが大きくなりそうだ。その純設定額について知りたい。ただ、これについては、日本証券業協会の稲野会長が「**個別には調べていないが、買い付け状況も順調に推移したと聞いている**」(1 月 15 日)と言っているようにデータはまだ整備されていない。先述通り、SBI 証券や松井証券の様な NISA ランキングを元に、日本証券業協会や投資信託協会、メディアなどがとりまとめてくれるのを待つしかない。ちなみに NISA が範としている ISA の英国では英国投資運用業協会(IMA)が ISA ファンド動向を毎月発表している。参考までに 2014 年 1 月 9 日に発表された最新 2013 年 11 月の英国 ISA 純流入(推計)1 位は**ミックス・インベストメント(株 20~60%、英ポンド 30%以上)**、2 位は英国小型株、3 位は英国高配当株である(URL は後述[参考ホームページ])。

日本の既存投資家による NISA 投資について、既存投資家がこれまで通りの投資姿勢をする場合もかなりあると思われる。それなら、投信全体の動向が既存投資家の NISA 投資に近いと言えそうだ。そこで投信全体の純設定(推計)を見る。

日本籍の国内投信の純設定(推計)の推移  
(2013年1月11日 ~ 2014年1月10日、週次データ)

日本国内投信  
週次・純設定

\*国内投信…(単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。  
インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。



上記グラフは国内投信全体、「日本の単位型及びETFを除く追加型投信(MMF等日々決算型を除く)」の純設定(推計)である。2014年1月10日週に+2626億円と、2013年8月2日週以来5カ月ぶりの大きな資金純流入となっている。その純設定額を分類別に見ると、**その他(アセットアロケーション等)ファンド、日本株ファンド、REITファンドが多い**。ただ、1月10日週の純流出入(推計)でランキングし全分類の内訳を示す次頁テーブルを見ると、上記グラフで、**その他(アセットアロケーション等)ファンド**に含まれる「**その他オルタナティブ**」が多い。これは**日本株ブルベア・ファンド**のブルが中心となっている。日本株ファンドに近いものであり、この週については**日本株ファンドとREITファンドが人気だった**と言えそうである。これであれば、先の報道とかなり近くなる。

以上をまとめると、「投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層」を中心とする新規投資家(NISA向けファンド)では**アセットアロケーション等ファンドと日本株ファンドが人気**で、既存投資家(投信全体)では**日本株ファンドとREITファンドが人気**と言う事になる。

ただ、これは2014年で実質最初となる一週間の話であり、日本株ファンドは昨年2013年12月に最も資金純流出が多かった分類である(\*2013年末の証券優遇税制廃止を前に、優遇税率10.147%を享受しようとする動きで解約が急増していた)。さらに英国の**本家ISA**の様に国内株式ファンドには毎年のISA年度開始の月に増えると言う季節性もあるのかもしれない(2013年10月21日付日本版ISAの道その32~URLは後述[参考ホームページ])。その意味で、予断を許さず、引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見てNISA動向を判断していきたいものである。

日本の投信の分類別週間資金純流入(資金純流入の大きい順)

\*単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。



2014/01/10

順位	分類名 (Morningstar Global Category)	資金 純流入 最新週 (百万円)	資金 純流入 前週 (百万円)	資金 純流入 4週計 (百万円)	純資産 (百万円)
1	日本株	+81,397	+14,903	-114,649	8,309,095
2	不動産セクター株(REIT)	+49,803	+17,522	+48,564	8,233,724
3	ハイイールド債	+48,923	+7,855	+77,742	5,551,079
4	米国大型フレット株	+26,637	+3,551	+59,922	1,323,449
5	その他オルタナティブ	+25,121	+9,193	+12,268	267,189
6	アセットアロケーション柔軟型	+22,143	+10,989	+122,464	552,466
7	グローバル株	+18,316	+1,855	+13,528	4,765,313
8	米国債券	+11,951	+2,465	+36,729	1,158,934
9	日本債	+10,689	+2,037	+27,321	1,587,257
10	アジア株(除く日本)	+8,185	+43	+13,743	745,600
11	アジアハイブリッド債	+6,014	-20	-11,971	2,099,754
12	多種オルタナティブ	+4,241	-399	+1,446	338,739
13	欧州大型株	+4,017	+8	+72,782	244,456
14	アセットアロケーション債重型	+3,603	+1,476	+4,299	319,718
15	グローバル債	+3,519	+432	-60,651	7,395,345
16	アセットアロケーション標準型	+1,133	+1,750	-22,761	1,198,469
17	アジア株	+185	+4	-221	15,346
18	ターゲットデット2021-2045	+152	+185	+129	27,998
19	インフレ連動	+27	+2	-194	5,702
20	マーケット・ニュートラル	+15	+82	-244	20,141
21	ユーロ債	-74	-10	-2,389	108,067
22	CB	-76	-0	-9,144	364,955
23	通貨	-78	-30	-282	6,711
24	ロング・ショート	-251	-6	-2,559	58,425
25	商品・バスケット	-364	+14	-1,268	64,975
26	中国株	-491	+19	-10,910	294,057
27	インド株	-811	-601	-9,790	353,780
28	日本マネー・プール	-10,871	-6,074	+899	72,837
29	アセットアロケーション積極型	-12,090	-177	-76,110	2,805,380
30	エマージング株	-14,662	-730	-56,879	1,869,023
31	エマージング債	-23,654	-3,227	-146,141	6,452,813
	全31分類の合計	+262,649	+63,111	-34,426	56,610,797

(出所: Ibbotson及びブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

【参考ホームページ】

日本証券業協会「全国証券会社主要勘定及び顧客口座数等」…「 <http://www.jsda.or.jp/shiryō/toukei/kanjyo/>」、2013年6月3日付日本版ISAの道その14「カナダ版ISA『TFSA』を見ていると、日本版ISA(NISA/ニーサ)が2014年に5~600万人、4~5兆円となる可能性は十分あると言えそう~日英加の少額投資非課税制度比較~。」「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130603.pdf>」、2014年1月8日付投信協会メールマガジン…「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、SBI証券のNISA口座ランキング…「 <https://www.sbisec.co.jp/>」、松井証券のNISAのETF買いランキング&REIT買いランキング…「 <http://www.matsui.co.jp/>」、2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「 <http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、英国投資運用業協会(Investment Management Association/IMA)…「 <http://www.investmentfunds.org.uk/>」、2013年10月21日付日本版ISAの道その32「『本家』英国で、RDR改革がもたらしたIFA数減少によって、ISAを中心にDIY投資家が増えて投資の危機が進行中?~最新の英国ISA(ファンド)動向~」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/131021.pdf>」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクの開発したものです。